

伊藤 光 昌 (イトウ ミツマサ)

株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ会長

危機こそチャンスととらえ、 技術と技能の研さんと充実を図る

◆プロダクトミックスにより売上原価率が悪化

常務執行役員 長井 啓

2009年3月期第2四半期の連結業績は、売上高96億53百万円、営業利益20億52百万円、経常利益23億4百万円、四半期純利益12億45百万円となった。用途別売上高の動向であるが、産業用ロボットについては、期初予想をほぼ達成することができた。半導体製造装置については、今期中に回復するという見方もあったが、結果として厳しい状況が続いている。FPD製造装置については、韓国、台湾からの引き合いが増加し、期初予想を上回る結果となった。モーターメーカー向けギアヘッドについては、ロボット向けが若干減少したことから計画を下回った。石油掘削装置は、ハリバートン社向けで、昨今の資源の高騰も追い風となり、計画を大幅に上回った。

営業利益は、計画を若干下回っている。要因としては、収益性の高い半導体製造装置向けの小型タイプが低迷したことが挙げられる。FPD製造装置向けについては、パネルの大型化に伴い、使用される当社製品の大型化が進んだことから利益率は低下傾向に働いた。石油掘削装置でも大型タイプが使用されているため、売上は伸びたものの、営業利益面ではマイナス要素となった。遊星減速機は好調な売上実績となったが、当社単体ベースで見た場合、子会社からの仕入れ商品であり、一定のトレードコミッションのみが計上されることから、利益率の低下要因となった。加えて、米国子会社の収益も期初予想を下回った。

前年同期との比較では、売上高が5.8%増となったが、これは単体の売上増が要因である。米国子会社は、半導体製造装置関連の需要がスローダウンした影響を受けたことに加え、為替レートが円高に転じたことから減収となった。売上総利益率については、単体が増収となったものの、プロダクトミックスの影響により売上原価率が悪化したため、2.7ポイント低下した。販管費は前年同期とほぼ同水準であった。経常利益については、持分法投資利益が増加したことにより前年同期を上回った。持分法投資利益は、前年同期が1億46百万円、当四半期は2億33百万円となっている。四半期純利益は減益となったが、これは、特別損失に計上した退職慰労功労加算金の影響である。

◆産業用ロボット、FPD製造装置が好調に推移

米国子会社は、半導体製造装置向けの低迷により減収減益となった。為替換算レートは、前年同期が1ドル120.15円、当期が1ドル104.92円である。なお、北米の工場については、2005年からナブテスコ社とのジョイントベンチャーに切り替わり、現在、生産革新、日本製製品との仕入れ統合など、抜本的な対策を進めている。遊星減速機アキュドライブ[®]を製造しているハーモニック・エイディでは、金属の弾性を活用したロー・バックラッシュや短納期（1～2週間対応）が評価され、顧客層が拡大してきたことから増収増益となった。主な用途は、モーターメーカー向けギアヘッド、産業用ロボットである。ドイツの持分法関連会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーについては、9月まで欧州の市場が堅調であったため、増収増益を達成している。

単体の業績は、売上高87億17百万円、売上総利益35億10百万円、売上総利益率40.3%、営業利益17億71百万円、営業利益率20.3%、経常利益19億53百万円、四半期純利益10億51百万円となった。用途別売上高では、産業用ロボット、FPD製造装置が好調に推移している。一方で、半導体製造装置は低迷が続いており、先行きにも懸念を持っている。モーターメーカー向けギアヘッドについては、遊星減速機が本格採用されたことで前半大きく伸びたが、その後、足踏み状態となった。土木建設機械の石油掘削装置は好調に推移しており、ハリバートン社の製品の中で当社製品を使用するモデルの比率が上昇している。なお、その他の用途には、車載部品が3億25百万円程度含まれている。

単体の営業利益の増減要因としては、増収による増益効果が5億22百万円、プロダクトミックスの影響による限界利益率の悪化が2億76百万円、製造固定費等の増加による減益が94百万円、販管費の増加（年金資産運用損を含む）による減益が1億15百万円となっている。販管費については、人件費の増加に加え、ドイツ関

連会社であるハーモニック・ドライブ・アーゲーの株式を買い増した際のデューデリジェンス費用、青梅製造との資本・業務提携に伴う調査等の諸経費が発生している。

連結総資産は248億25百万円で、前期末比で増加した。内訳としては、投資その他の資産で、ハーモニック・ドライブ・アーゲーの株式取得により35億80百万円の増加、保有しているナブテスコ社株式の時価下落により16億80百万円の減少となった。負債については、ハーモニック・ドライブ・アーゲー株式の取得に当たって短期借入金の調達（17億円）を実施したことで、流動負債の合計が増加した。純資産については、純利益の増加などにより株主資本が増加したものの、評価差額金が減少したため、全体では減少している。

連結キャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが15億56百万円の収入となった。税引前純利益は前年同期とほぼ同水準となったが、法人税支払いの影響などにより、前年同期比で増加している。投資活動によるキャッシュ・フローは、ハーモニック・ドライブ・アーゲーの株式取得等により39億80百万円の支出となった。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の調達などにより12億10百万円の収入となった。

◆自動車産業の設備投資意欲の減退がロボットメーカーに影響

通期の連結業績は、売上高175億円、営業利益29億20百万円、営業利益率16.7%、経常利益33億70百万円、経常利益率19.3%を見込んでおり、自動車産業の設備投資意欲の減退が当社の顧客であるロボットメーカーの業績に影響を与えるため、当初予想を下方修正した。地域別に見ると、日本国内では、ロボットメーカー向けの売上が減少する見込みである。北米では、米国経済全体が調整局面にあることから、しばらくは底ばい状態が続くとみている。欧州は現時点では大きな落ち込みは見られないが、世の中の経済動向を踏まえると緩やかに減速すると予想している。韓国、台湾については、半導体・液晶関連の投資意欲が減退しており、特に韓国は、下期に入って急激に落ち込んでいるため大幅な縮小を見込んでいる。

北米子会社では、売上高23億円（前期比25.4%減）を見込んでいるが、メカトロニクス製品の拡販効果は徐々に出てきている。ハーモニック・エイディでは、モーターメーカー、ロボットメーカー向けの売上が大幅に減少する見込みである。ドイツ関連会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーについては、強みであるセールスエンジニアリングで高い評価を得ており、航空機分野、宇宙・防衛分野など、新たな用途も広がっているため、大幅な落ち込みはないと期待している。

単体の売上高は158億円、営業利益は26億50百万円を予想しており、これまで20%台を維持してきた営業利益率も16.8%に低下する予想である。営業利益の減少要因は、減収の影響が5億15百万円、プロダクトミックスの影響による限界利益率等の変化が3億43百万円、その他製造費用の増加が1億10百万円、販管費の増加が1億14百万円である。なお、単価については、10月1日付で値上げを発表しており、米国、ドイツは合意済みである。国内でも交渉を実施中であり、既に合意に至ったお客様もある。

用途別売上高の下期予想としては、半導体製造装置、FPD製造装置が厳しくなる見込みである。産業用ロボットについては、自動車産業の設備投資が落ち込んでいる。また、当社が得意とする小型の水平および垂直型ロボットについても、米国の消費の落ち込みにより、携帯電話やゲーム機などの組み立てを行っている企業からの引き合いが止まっている。モーターメーカー向けギアヘッドについては、産業用ロボットの需要の落ち込みにより大幅に減少する見込みである。車載部品については増加を見込んでいる。

下期の製品別売上高については、ロボットメーカー向けの売上が大きく減少する予想から減速装置で56億82百万円を見込んでいる。メカトロニクス製品については、これまで半期で17億円前後であったが、下期は14億円を見込んでいる。

◆さらなるトータル・モーション・コントロールの高度化を推進

会長 伊藤光昌

現在、世界的な金融システム混乱のあおりを受け、実態経済の悪化により厳しい環境となっているが、「危機こそチャンス」ととらえ、技術と技能の研さんと充実にまい進するとともに、国際化の推進、人材能力の底上げを図っていく。需要動向については、下期はほとんどの用途が下降し、短期間での回復は期待薄とみているが、さらなるトータル・モーション・コントロールの高度化、すなわちメカトロニクス製品を延ばすことで乗り切っていきたいと考えている。また、長期的には太陽発電パネルなどの環境対応品や多軸化などの進化したロボット、医療機器等々の高い潜在能力を持っている用途が期待できると考えている。競争力の状況としては、1～2年以内に新たな競合品の出現やシェアの低下、既存アプリケーションの喪失はないとみている。また、

製品価格の大幅な下落もない。短期的には為替の影響、原材料価格の上昇などが想定されるが、生産性の改善や短納期による原価低減によって影響を最小限に抑えていく。

「トータル・モーション・コントロール」の高度化への具体的な取り組みでは、技術と技能の研さんと充実として、研究開発の強化などの社内的な取り組みに加え、後ほど説明するが、資本提携を伴う外部経営資源の取り込みを積極的に行っていく。国際化の推進については、ドイツ関連会社ハーモニック・ドライブ・アーゲーの出資比率を25%から35%に引き上げた。これによりグループとしての世界戦略の推進、グループ資源の最大限の活用を図る。人材能力の底上げについては、厳しい環境こそ絶好の機会と考え、社員一人ひとりの感性の向上とマニュアルを超えた知恵の創出に取り組み、管理本位からの脱却を図っていく。

外部経営資源の取り込みについては、当社のサプライヤーである青梅鑄造と資本提携した。同社は、高強度鑄鉄を中心とした鑄造製品の開発・製造・販売を行っており、高強度ダクタイル鑄鉄という材料は特許と製造ノウハウを持ち、当社にとっても不可欠な技術である。資本提携によって安定的な調達を確保するとともに、高強度鑄鉄の技術・技能を修得したいと考えている。投資金額は1億85百万円で、発行済株式総数の49.2%を取得し、会計上は、持分法適用会社となる。減速装置には、小型・軽量、高出力、高強度、高精度という永遠のテーマがあるが、これには材料技術の革新が欠かせない。これまでも、当社製品は開発、性能の向上を図ってきたが、ここでも青梅鑄造の開発した高強度鑄鉄が材料強度と加工性の両面を兼ね備えた材料として重要な役割を担ってきた。今回の提携によって、基本性能を飛躍的に向上させたいと考えている。

当社の成長は、工作機械、産業用ロボット、半導体製造装置などを牽引役としてきたが、一方で収益はこれら設備投資の変動に大きく左右されてきた。今後、さらに顧客価値を創造する企業へ進化するため引き続き、当社の顧客価値である「トータル・モーション・コントロール」への取り組みを推進していく。

(平成20年11月20日・東京)